



令和7年度学力向上に係る学習会より（概要）

1 昨年度の校内研修の事例共有

(1) 福住小学校

統合によって、不登校や登校しぶりを出さない。そして新しい環境でともに学ぶ楽しさのある学校づくり仲間づくりをしていくことを全教職員で共有して研修を進めた。(不登校0) 事前研、事後研を個人ではなく組織的に丁寧に行う。教員のファシリテーター力・コミュニケーション力向上研修。

(2) 豊岡北中学校

3年計画の研修計画。校内研修のあり方等、ニーズについて教職員にアンケートを取って進めた。相互授業参観で共通のワークシートの活用。公開授業の事後研、教科を越えて展開した。研修だよりで全教職員でのさらなる共有を図る。学校評価では、研修に対する評価が年々向上。

2 講義「自校の『主体的な学び』のありようを見直そう」 兵庫教育大学大学院 教授 勝見 健史 氏

(1) 今、求められている学び（育ちの姿）

・実際に知識・技能を使えるか（具体的な相手、場面、状況下で）

複数の対象の関係づけ、条件との関係づけ⇒関係づけた結果、どうなのかについて学び合うことが大切

★気をつけたいこと＝方法・ツールが自己目的化しない

・関係づける思考＝手段（理由付け、比較、分類…）を入れることによる共通の深まり＝目的（どのようにつながったか）を生み出す⇒各校で意識した授業の展開が大切（単元のデザイン・問い＝追究課題を工夫しよう、日常生活（国語：言語生活や読書生活）との関連づけも大切、魅力的な学習課題や探究の単元をつくることに挑戦してほしい） ⇒ しかし、**方法・ツール・手段を目的化しないこと！学習像全体の中で生かす。**

例：UD…「どの子も活動する、どの子にも寄り添う」⇒ ×学びの難易度を下げる ○学びの魅力を高める

・主体的学習とは…次の2つはセット！

課題依存型の主体的学習（課題の面白さ、課題への興味・関心、話す・書く等の外化の活動を通して促進）

自己調整型の主体的学習（学習の目標や方法に関わるメタ認知、自己調整しながら取り組む）

★気をつけたいこと＝【深まり】を放棄しない

・着眼・考え方の“ずれ”＝深まりの契機 積極的に取り上げてほしい！

・豊岡市の「授業アイデア集」。内容は素晴らしいが、もう一つステップアップするためには、理由付け等により“ずれ”が生じた際、**どのように深まったかにコミットしてほしい。**

(2) 研修担当として、年度当初にすべきこと

素晴らしい成果⇒・福住小の発表：不登校なし ・豊岡北中の発表：教職員の研修の充実度向上

・求められる学力・学習像の確認共有 ⇒ 授業実践（そのために何をするか）⇒ 学力がついたのか確かめ（事後研究会のあり方）

・「授業＝教師の見え方の総体」例：「ずれ」の存在、「つまづき・停滞」の状況を見取る＝深まりの契機

・ツールを使って、子どもがどう変わったか？…**見取りの力：教育的鑑識眼を磨くこと**

・**事後研を工夫しましょう** ※事実…発話記録、ビデオ等で記録しましょう。

① 事実をひろく ② その事実の意味・価値を語る ③ 事実と事実の関係性を見出す

④ 事実に対する他者の解釈と重ね合う ⑤ 事実でポイントとなる局面・事実を焦点化

⑥ 焦点化した局面を考察（事実の再認識・代案検討）⇒**学校全体でワクワクしながら研修を！**